咳テスト　実施・判定用紙

若杉らの1分法　｜　クエン酸吸入で誘発された咳を数える

対象者 ID　　評価日　　年　　月　　日　　時　　分

評価者　　体位・頭位

1　適応と器材を確認する

対象は摂食嚥下障害が疑われる成人。原著は喘息既往者を除外した。呼吸器疾患や呼吸状態に懸念がある場合は、開始前に医師と適否・急変時の対応を確認する。

☐ 説明・同意　☐ 呼吸状態・適応　☐ 施設の感染対策・急変時対応
☐ 超音波ネブライザ　☐ チューブ付きマスク　☐ 時計　☐ 必要時ノーズクリップ
☐ 1.0重量%クエン酸生理食塩水溶液（施設で管理する吸入用の試験液）

使用機種・接続具　　開始前の呼吸・自発咳

2　口から吸入し、最長60秒観察する

① 呼吸を観察できる体位を整え、マスクを口元に当てる。声かけ例「口で息をしてください」。原著では経口吸気が難しい場合にノーズクリップを使用した。
② 吸入開始と同時に計時し、誘発された咳を1回ずつ数える。随意咳を促さない。5回目で吸入を終了する。5回に達しなければ、開始から60秒で終了する。
③ 苦痛や呼吸状態の悪化時は中止し、施設手順に沿って対応する。中止時刻、その時点までの咳の回数、中止理由を記録する。

3　咳の回数・終了条件・判定を記録する

咳が出るごとに丸を付ける　①　②　③　④　⑤

観察した咳　　回　終了時　　秒　経口吸入　☐ 確認　☐ 不確か

終了時の条件	判定（該当欄にチェック）
60秒以内に5回目を確認	☐ 陰性
60秒完遂し、咳が0〜4回	☐ 陽性（不顕性誤嚥を疑う）
5回未満で途中中止／吸入不成立／未実施	☐ 判定せず、理由を記録

中止理由・観察所見

共有先・次の評価

総点や換算はない。原著の機器はNE-U17、70 cmチューブ付きマスク。実施には実機と薬液が必要。

出典　若杉葉子ほか．日摂食嚥下リハ会誌 2008；12：109–117．doi:10.32136/jsdr.12.2_109
日本摂食嚥下リハビリテーション学会『摂食嚥下障害の評価 2019』。原著に基づく独自編集用紙。

検査結果のみで誤嚥や経口摂取の可否を決めない。